



2021年の企業の社会的責任（CSR）レポート

# 協働イノベーションで より良い明日を築く

# 目次

- 3 2021年のCSRのハイライト
- 4 社長兼最高経営責任者(CEO)からのレター
- 5 CSR戦略とレポートの概要
- 6 このレポートについて
- 8 第1の柱:イノベーション
- 12 第2の柱:安全
- 16 第3の柱:従業員の成長とインクルージョン
- 20 第4の柱:持続可能性
- 24 サプライチェーン
- 28 付録データ

## 2021 年の CSR のハイライト

2021 年、インテグリスは 2030 年の企業の社会的責任 (CSR) に関する目標に向けて前進を続け、CSR 戦略の 4 つの柱であるイノベーション、安全、人材育成とインクルージョン、持続可能性において、その成果を広げることができました。2021 年のハイライトの一部をご紹介します。

100%



国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に連帯したイノベーションのポートフォリオの割合

31%



総労働災害発生率 (TRIR) の減少割合 — インテグリスの過去最低を記録

800  
万米  
ドル



2020 年以降、奨学金、インターンシップ、共同研究プログラムのためにインテグリス財団へ投資された金額の累計

42%



科学・技術関連職への新規採用者のうち、女性や社会的に過小評価されているグループの出身者が占める割合

38%

取締役会メンバーに占めるダイバーシティの割合

99.9%

米沢工場における、産業廃棄物埋立処分量の削減割合

100%

従業員の倫理規定トレーニング修了率

シルバー  
メダル



EcoVadis のシルバーメダルを受賞。インテグリスは業界の上位 25% にランクイン。

A  
評価



MSCI 評価で同業他社の上位 33% にインテグリスがランクイン



従業員とビジネス  
パートナーの努力と  
献身がなければ、  
これほど大きな進歩  
を遂げることはでき  
なかったでしょう。



パンデミックの影響を受け、経済の不確実性からサプライチェーンの問題、地政学的な緊張や社会不安に至るまで、私たちは前例のない世界規模の課題に直面しています。このような多様かつ複雑な問題を解決できる、単純明快な答えというものには存在しないため、私たちは共に団結し、前向きな変化をもたらす革新的な解決策を見出さなくてはなりません。奨学金やインターンシップによる次世代のエンジニア、科学者、リーダーの育成や、当社施設での技術の構築による、より持続可能なビジネス慣行の実現など、私たちはこれまでの取り組みにより、より良く、より包括的な世界の構築と、責任ある自然環境の継承に向けた道を歩んでいます。

インテグリスは、ミッションステートメントと **PACE の価値感** (人とチームワーク、説明責任、誠実さと信頼、創造性と革新性、卓越性の追求) を指針として、業界のエコシステムだけでなく世界全体に、より良い未来を創造するために、ビジネスを行っています。これらの考え方は、イノベーション、安全、従業員の成長とインクルージョン、持続可能性という4本の柱にわたる企業の社会的責任 (CSR) とコミットメントへの取り組みの基本方針となるものです。

2021年、インテグリスは事業戦略と業務の両方において、先進的なイノベーションへ総合的に取り組み続け、リアルタイムでその影響を測定できるようになりました。インテグリスの2030年までの達成目標は非常に大きなものですが、私はこの1年間で達成した進歩を心から誇りに思っています。その一例として、Aramus™ (アラムス) アッセンブリーへの取り組みは、インテグリスの技術イノベーションを現実世界で成功させ、新型コロナウイルス感染症のワクチン約30億回分をタイムリーかつ効果的に供給できるようになりました。

また、**CMC Materials の買収**は、私たちにとって、2022年の画期的な出来事と言えるでしょう。これにより、お客様が抱える最も緊急性の高いプロセス関連の課題に対応し、意欲的な技術ロードマップをより確実にサポートすることが可能になっただけでなく、環境の持続可能性と利害関係者に対し、プラスの影響をもたらすことができるようになりました。

インテグリスは、科学に基づいた知識と共働のソリューションによって、より良い世界を創造できると考えています。先端材料科学のリーダーとしてのインテグリスの使命は、お客様がこの知識とソリューションを活用して、複雑な製造環境に対応できるように支援することであり、私たちは50年以上にわたり、この使命を推進し、世界を変革する新しい技術を実現してきました。この実績こそが、協働イノベーションによってより良い明日を築くことができるという確信につながっているのです。

インテグリスの従業員は、期待をはるかに上回る力で、困難な問題の解決に取り組んでいます。従業員とビジネスパートナーの努力と献身がなければ、これほど大きな進歩を遂げることはできなかったでしょう。インテグリスの事業および目標達成に向けた取り組みで遂げた進歩を、このレポートにより深く知っていただければ幸いです。

**Bertrand Loy: 社長 兼 最高経営責任者**

## 協働イノベーションで より良い明日を築く

新たな地球規模の課題に直面している今こそ、未来に目を向けると、科学に基づく知識と革新的なソリューションをもって互いに協力すれば、より良い明日を築くことができるといふまたとない機会を見出すことができます。

企業の社会的責任 (CSR) 戦略への取り組みにあたり、インテグリスは 2 年連続で、「先端科学により世界を変える技術を実現する」というビジョンに基づいたアプローチを導入しています。2030 年のマイルストーンに向けて 2020 年に設定した目標は、当社のこれまでの進捗を考えれば決して達成できないものではありません。しかし今後も引き続き協力して、業界のみならず世界に適応と変革をもたらす最先端の技術を模索していく必要があります。

CSR プログラムに関する 2 回目の年次報告書は、インテグリスの 2030 年までの達成目標に向けての進捗を、利害関係者の皆様に包括的に伝えることを目的としています。これらの達成目標は、国連の持続可能な開発目標 (U.N. SDGs) やサステナビリティ会計基準審議会 (SASB: Sustainability Accounting Standards Board) など、多くのフレームワークに基づいて開発されました。これらの指針は、インテグリスが今日極めて重要な課題に最も効果的に対処するための優先順位を付け、今後の CSR の取り組みにおいて 4 本の主要な柱に全力を注ぐことを後押ししてくれます。その柱とは、イノベーション、安全、従業員の成長とインクルージョン、持続可能性です。これらの重点分野は、私たちが組織として団結し、持続可能で包括的、かつ先進的な企業を構築するために共に働く機会を与えてくれます。また、これまでのインテグリスの取り組みを認識し、未来に目を向けて、複雑な世界的規模の課題に正面から取り組み続けることを可能にします。



私たちは、透明性を高め、社会と環境にさらに多くのプラスの影響を与えるために、CSR 戦略とレポートのアプローチを継続的に進化させていきます。2022 年の CMC Materials 買収完了を受け、統合された組織の経済的、環境的、社会的影響に効果的に対応し、さらに大きな違いを生み出すために CSR 戦略と 2030 年までの達成目標を総合的に評価します。これらの取り組みについては、2023 年後半に最新情報を提供する予定です。

# このレポートについて

## 使命と価値観

### 倫理とガバナンスへの取り組み

インテグリスは、事業遂行において最高水準の倫理と誠実さを維持することをお約束します。当社は、説明責任、誠実、信頼の **PACEの価値観** を中核とする強力なガバナンス システムを確立してきました。

このフレームワークは、**職務倫理規定** に基づいたものです。この規定は世界共通の企業方針であり、従業員の行動規範となる倫理基準を詳述しています。インテグリスでは、従業員に対し、たとえば、汚職防止コンプライアンス、利益相反、機密保持、独占禁止コンプライアンス、インサイダー取引コンプライアンス、職場でのハラスメント、差別防止、貿易コンプライアンスなど、幅広いテーマで、継続的かつ的を絞ったトレーニングを実施しています。これには、フルタイムの全従業員を対象として行われる年1回の倫理規定に関する必修トレーニングも含まれます。2021年の最新の倫理規定トレーニングでは、現役の従業員のコース修了率が100%に達しました。また、環境安全衛生、紛争鉱物の調達、人権に至るまで、さまざまな問題についての方針を発表しています。インテグリスの倫理・コンプライアンス ポリシーと職務行動規定は、グローバル事業における腐敗行為または違反行為を防止するように作られています。また、私たちのポリシーとコンプライアンス プログラムは、インテグリスの代理として活動するサードパーティによる不正行為の可能性を防止するように設計されています。潜在的にリスクのあるビジネス パートナーを特定して関係を適切に評価し、必要に応じてコンプライアンス管理を要求する評価プロセスを整備しています。

2021年、利害関係者からのフィードバックに応え、動物実験に関する新たな方針を導入しました。インテグリスの製品開発において動物実験が必要とされることはほとんどありませんが、この方針で私たちは動物実験の使用を最小限に抑えることを約束しています。法律または規制によって試験が必要とされ、他のオプションがすべて利用できない場合は、ポリシーに基づいて過去の第三者機関でのデータの参照を優先し、それも利用できない場合は、認定された第三者機関のラボ (AAALAC1 または同等) を利用します。**動物実験に関する方針** およびその他の **詳細な方針** については、インテグリスのウェブサイトをご覧ください。インテグリスは、職務倫理規定、方針、および手順が組織全体で適切に実施されていることを確認するために、継続して自己評価を実施しています。インテグリスは、施設全体でこの方針と倫理的パフォーマンスを確実に実施するためにレスポンシブル・ビジネス・アライアンス (RBA: Responsible Business Alliance) によって手配された第三者による監査を手配、実施しています。またインテグリスでは、すべての従業員が雇用に関わる懸念を報告できる、24時間体制のホットラインを用意しています。

匿名かつ秘密厳守で報告できるインテグリティ ホットライン (Integrity Hotline) には、独立したサードパーティ機関の専門家が常駐しています。従業員の懸念はすべてこれらの専門家によって書面化され、調査の対象になります。さらに、インテグリスは、内部告発者を保護することによって、従業員が (必要に応じて匿名で) どのような不正行為の疑いでも報告できるようにしています。すなわち、これらの報告手続きを善意で利用する従業員は報復行為から保護されます。これらの問題の調査は人事部および内部監査チームの支援を得て法務部門の主導で行われます。取締役会の監査・財務委員会が調査を監督しており、最新の状況がメンバーに定期的に伝えられます。

インテグリスは、これらの方針と保護を、包括的な企業リスク管理フレームワークを使用して実施します。上級管理職をリーダーとする企業リスク評価チームが常設され、組織や業務をおびやかす事案を早期に把握するために四半期ごとの会合が行われています。インテグリスの取締役会はその管理を監督し、これらのリスクに関する報告を受けます。



## 企業の社会的責任のガバナンス

2020年、インテグリスは、企業の社会的責任 (CSR) 戦略の4本の柱の推進に直接的に責任を持つ上級管理職チームのメンバーで構成されるCSR評議会を設立しました。CSR評議会の会合は毎月行われ、それぞれの柱の進捗状況と今後の取り組みを要約した資料を確認します。CSR目標に関する進捗状況は上級幹部の年間業績目標のひとつになっています。

CSR評議会は、最高経営責任者のBertrand Loyおよび投資家担当バイスプレジデントのBill Seymourが率い、シニアバイスプレジデント兼 法務担当役員兼 コンプライアンス統括責任者 Joe Colella、環境・労働安全衛生担当シニアバイスプレジデント Jason Goodwin、シニアバイスプレジデント兼 最高技術責任者 Jim O'Neill、人事担当シニアバイスプレジデント Sue Rice、グローバルオペレーションおよびサプライチェーン担当シニアバイスプレジデント Neil Richards、およびその他のインテグリスのリーダーシップチームによって構成されます。

インテグリスの**取締役会**はCSRプログラムに積極的に取り組んでおり、上級管理職から年度中の関連事項に関する最新情報が報告されます。取締役会は、お客様、インテグリスの従業員、協力会社、当社が事業を展開している地域社会などの利害関係者について考えることが最も株主の長期的利益につながることを理解しています。

## レポートのアプローチ

2021年のレポートでは、インテグリスは引き続き、国連の持続可能な開発目標 (U.N. SDGs) およびサステナビリティ会計基準審議会 (SASB: Sustainability Accounting Standards Board) に連携しています。今後のレポートでは、気候変動のリスクに関連する財務報告の改善に重点を置いたフレームワークである、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD: Taskforce for Climate-Related Financial Disclosure) に連携する予定です。また、規制当局によって義務付けられている気候変動に関する開示要件を遵守し、科学に基づく目標設定イニシアチブ (SBTi: Science Based Target initiative's) の基準に沿って科学的根拠に基づいた排出削減目標を設定する予定です。

## 国連の持続可能な開発目標 (U.N. SDGs)

インテグリスは、U.N. SDGs と連携するCSRプログラムの運用に取り組んでいます。U.N. SDGs はすべての人にとってより良い、より持続可能な未来を実現するための設計図です。インテグリスの事業全体でU.N. SDGsを指針とし、貧困や不平等から気候変動や環境悪化に至るまで、私たちが直面する極めて重要な地球規模の課題に取り組みます。

イノベーションの柱に関しては、2030年までの達成目標のひとつにイノベーションのポートフォリオと100%連携してU.N. SDGsを進めます。インテグリスの製品とソリューションは半導体の生産を可能にする重要な要素であり、技術の普及から気候変動対策となる電気自動車の開発や現代医学におけるAIの進歩に至るまで、幅広い社会的課題への対処をサポートします。

## サステナビリティ会計基準審議会 (SASB)

インテグリスのCSRレポートはSASBと連携しています。SASBは、持続可能性に対する私たちの取り組みについての情報を投資家やその他の関係者に開示する重要なフレームワークを提供するものです。この基準は、半導体業界に最も関係の深い環境、社会、ガバナンスの問題を特定します。これにより、利害関係者は業界内企業のパフォーマンスやベンチマークの比較が可能になります。SASBフレームワークに対して報告された指標の詳細な内訳は、このレポートの**付録データ**で確認できます。

## 重要課題評価

2020年、インテグリスはCSR戦略とレポートのアプローチを報告するために予備的な重要課題評価を実施しました。そして、SASBを含む業界のベストプラクティスや報告ガイドラインを再調査しました。2021年には、投資家、お客様、インテグリスの従業員を含む主要な利害関係者と直接対話し、当社の事業やCSR戦略に関する課題に関して、国連の持続可能な開発目標 (U.N. SDGs) との整合性に関する彼らの視点を理解することができました。合計で300を超える回答が、このより正式な重要課題の調査のために集まりました。この情報を利用して、インテグリスの事業と利害関係者にとって最も重要な問題に優先順位を付け、戦略とレポートの継続的な進化について逐次報告する予定です。たとえば、当社の利害関係者は、従業員の健康、プロセスの安全性、緊急時の対応など、健康で安全な職場環境を確保することは優先事項であると肯定しました。さらに、腐敗の防止と倫理的行動の奨励は、倫理に関する最優先事項のひとつであり、公平性と生活賃金は労働に関する項目の優先事項であるという結果が得られました。



第1の柱

# イノベーション

インテグリスでは、科学とイノベーションがより良い世界を構築すると信じています。

イノベーションは私たちの活動の中心にあるだけでなく、事業を前進させる原動力でもあります。科学に基づく知識から生まれる革新的なアイデアがなければ、私たちが現在直面している複雑な世界規模の課題に対処することはできません。インテグリスの製品、ソリューション、およびプロセスの改善はポジティブな変化をもたらす原動力となり、従業員やコミュニティだけでなく、世界中の人々の生活を向上させることに繋がります。

2020年、インテグリスは U.N. SDGs との連携を 2030年までの達成目標に掲げ、取り組みを始めました。材料科学の進歩と新しい技術ソリューションの革新がなければ、2021年を通じてこれらの目標を達成するために必要な進歩を遂げることはできなかつたでしょう。最終的に、これらのアイデアの追求は、インテグリスとそのお客様に、経済的価値と技術を提供することを可能にします。それは、私たちが課題を解決するために協力し、より良い世界を形作ることへと繋がっていくのです。

2030年までの  
イノベーションの  
達成目標

1

経常費の少なくとも  
55%を研究開発 (R&D)  
に投資します

2

お客様のテクノロジー  
ロードマップを前進さ  
せるためにインテグリス  
のイノベーション ポート  
フォリオを 100% 実現  
します

3

U.N. SDGs を推進する  
ために、インテグリスの  
イノベーション ポート  
フォリオを 100%  
連携させます

国連の持続可能な  
開発目標

3

すべての人に  
健康と福祉を



9

産業と技術革新の  
基盤をつくらう



12

つくる責任  
つかう責任



17

パートナーシップで  
目標を達成しよう



# 2030年までのイノベーションの達成目標

インテグリスは革新的なアイデアを原動力に、2030年までの達成目標に取り組み始めて以来、独自の洞察力と技術を駆使して前進してきました。私たちはすべての人に利益をもたらす経済的価値とソリューションを提供するため、リソースへの継続的な投資を惜しみません。

## 経常費 (OpEx) の少なくとも 55 % を研究開発に投資する

OpEx の半分以上を投資に回すことで、新しい技術を開発し、それらの技術が最先端であることを保証すると同時に、社会の変革に貢献し、長期的にはインテグリスの事業の持続可能性を高めることが可能となります。OpEx に対する研究開発への投資は、2020年の35%から、2021年には約37% (非GAAP) へと引き上げられました。

## お客様のテクノロジーロードマップを前進させるために、私たちのイノベーションのポートフォリオを100%実現する

2021年、インテグリスは目標を達成しました。これは、2020年に世界にあるインテグリスのテクノロジーセンターに多額の費用を割り当て、世界中のお客様との協力関係を強化した結果です。

## 最大の貢献が期待できる U.N. SDGs の推進に向け、イノベーションのポートフォリオを100%連携する

クリーンエネルギーから持続可能な都市、気候変動への取り組みまで、2021年には、インテグリスの新製品開発 (NPD) ポートフォリオ全体を少なくとも1つのU.N. SDGと連携させています。主要な達成目標は、SDG 3 (すべての人に健康と福祉を)、SDG 9 (産業と技術革新の基盤を作ろう)、SDG 12 (つくる責任つかう責任)、SDG 17 (パートナーシップで目標を達成しよう) です。

2021年の研究開発への投資は、新しいツール、設計、プロセスの開発にも繋がりました。以下はその例です。

- ラムリサーチ社 (Lam Research) と共同で、極端紫外線 (EUV) リソグラフィ用のドライレジストプリカーサーを開発します。このイノベーションにより、標準的な化学増幅型レジストプロセスよりも少ないエネルギーでより持続可能で効率的なレジストプロセスを実現します。

- すべての新製品開発 (NPD) プロジェクトの開始時から持続可能性要素の実装を実現するため、NPD ステージゲートプロセスを追跡するソフトウェアプラットフォームを導入しました。リソースの投資状況を追跡することで、新しい製品ポートフォリオ全体の持続可能性への取り組みを促進し、他の分野でも再現できます。最終的には、インテグリスで開発する各新製品のイノベーションプロセスの開始時において、具体的な持続可能性目標の導入を目指します。



## ワクチンへのアクセシビリティの向上

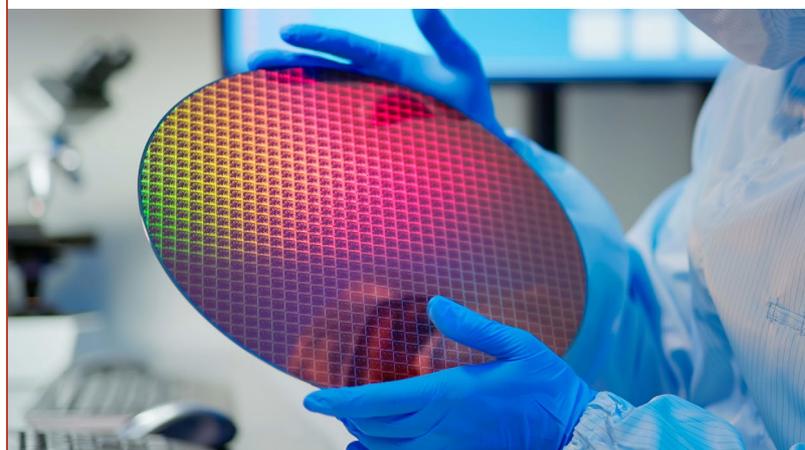
イノベーションを推進するというインテグリスの取り組みにより、半導体業界で必要とされる超高純度な材料を維持するために開発した技術により、Aramus™ (アラムス) 2D シングルユース バッグ アッセンブリーを作ることができました。これらのバイオ医薬品バッグは、世界中の人々に約 30 億回分の新型コロナウイルス感染症用のワクチンを供給するために必須のもので、輸送と保管にあたり、完全性を維持するために冷凍しなければならないワクチンをマテリアルハンドリング技術で支えました。初期製品開発の後、さまざまな治療法や開発段階における固有のニーズに適合するように多様な構成でアラムスを開発しました。この技術により、バイオプロセスの冷凍保管と輸送において最高の歩留まりとプロセスの経済性が達成できます。新型コロナウイルス感染症用ワクチンでの採用により、アラムスの使用は、その独自の凍結・解凍性能と純度により、モノクローナル抗体、mRNA、ウイルスベクター、細胞療法など、他の治療候補にも拡大しています。

## 先端半導体デバイス

限界寸法がナノメートル1桁台に近づき、複雑な3次元形状の構造に進化する先端の半導体デバイスでは、物理実験に基づく従来のアプローチで効果的な材料ソリューションを効率的に開発することは非常に困難です。このような課題に対応するために、インテグリスは、計算化学や分子動力学など代替となる補完的な材料開発アプローチの探索をはじめ、NPD プロセスの迅速化に着手しました。インテグリスはさまざまな材料やプロセスシステムに計算化学を適用するためにトップレベルの大学と協働しています。インテグリスはこの取り組みにより、以下のことを実現させました。

1. エッチングの副生成物がプロセスの結果を阻害する条件をシミュレートすることにより、エッチング後の残渣除去剤の性能を改善します。これにより、特定のアプリケーション向けの配合の迅速な最適化が可能となります。
2. 3D NAND アプリケーションの高選択性窒化膜エッチング (HSNE) プロセスにおいて、副生成物の蓄積による  $\text{SiO}_x$  の望ましくない再成長を防止します。これにより、3D NAND アプリケーションの最高の歩留まりにつながる最適な条件の発見にかかる時間が短縮化されます。
3. 化学機械研磨後 (post-CMP) の洗浄アプリケーションで使用されるブラシのコアに、生物から着想を得た新デザインを導入します。新デザインでは水の分配が改善され、慣らし時間が短縮されます。またこれは、積層造形技術を用いてのみ製造可能です。

インテグリスは、計算化学によって可能となる「仮想実験」により、材質開発のサイクルタイムを短縮する機会を引き続き追求していきます。「仮想」と「物理的」の両方からのアプローチを統合した、より効率的な材質開発プロセスを研究および開発するために、台湾技術センターに分子モデリングおよびシミュレーションの中核的研究拠点を設立しました。



## 次のステップ

イノベーションの目標に向けて前進を続けながら、インテグリスは以下のような今後を見据えた取り組みを行っています。

- 台湾テクノロジーセンター (TTC: Taiwan Technology Center) を拡張し、「CMP Center of Excellence」の増設により、お客様とのより緊密な協働を可能にするとともに、アジアでの研究活動とお客様との取り組みをサポートする高度な研究開発機能を備えたクリーンルームを拡大します。この拡張により、TTCの研究領域が25%広がる予定です。また、TTCの研究開発のサポートとして人員を50%増やし、25名の科学者、化学者、エンジニアを増員します。
- 「Molecular Modeling and Simulation Center of Excellence」を設立し、高性能コンピューティング (HPC: High Performance Computing) によって可能になる計算化学アプローチを使用して材料開発プロセスを促進します。
- 「Digital Manufacturing Technology Center」をシンガポールに建設し、コンピューショナルデザインの力と積層造形技術を組み合わせて、3Dプリントでしか成し得ない、性能を向上させた部品を生産します。このプログラムは、すでに主要な機器サプライヤーで現在評価中の独自の部品を生産しているパイロットプログラムをベースとするものです。





第2の柱

# 安全

職場の安全は、インテグリスにとって最も重要な価値感です。私たちは、全従業員の健康、安全、福利厚生を改善するための新しいソリューションを常に模索し、導入しています。

卓越した安全性を達成するというインテグリスの使命には、終わりはありません。従業員に安全な労働条件を提供するために高い基準を設定して、その高い基準を満たし、それを超えるように日々取り組んでいます。インテグリスは物理的な危険性を排除し、安全な職場環境を提供するために、製造施設すべてにおいて革新的な慣行と技術への投資をしています。

この努力を实らせるには、強力な安全文化への取り組みも必要です。安全文化は基本であり、インテグリスのあらゆる部分に影響を与えます。従業員はそれぞれ、安全な作業の原則をすべての業務に取り入れることが期待されています。一人ひとりが自分自身の安全だけでなく、同僚や仕事仲間の安全にも責任を負う文化を強化することは、卓越した安全性を達成するために重要な要素です。

2030年までの  
安全の達成目標

1

インテグリスのすべての施設で、けがのない職場環境を目指します

2

従業員の95%以上が「インテグリスは安全な職場」と言える環境を作ります

3

安全性の向上に向け、製造に関わる100%の従業員が積極的な報告・活動に参加します

国連の持続可能な  
開発目標

3 すべての人に  
健康と福祉を



8 働きがいも  
経済成長も



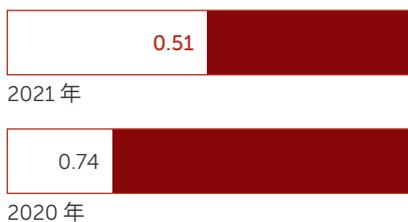
## 2030年までの安全の達成目標

インテグリスは、職場の安全性において業界のリーダーになることを約束します。昨年設定した3つの達成目標は、従業員の健康と安全を保護するための統合されたアプローチと整合し、私たちの安全文化および技術的プログラムと実践の両方の改善を推進しています。

### インテグリスのすべての施設で、けがのない職場環境を目指す。

当社の総労働災害発生率 (TRIR: Total Recordable Injury Rate) には、暦年中にインテグリスの施設で記録されたすべての傷害が含まれており、米国労働安全衛生庁 (OSHA: U.S. Occupational Health and Safety Administration) の方法に従って計算されています。2021年のTRIRは、0.51を達成しました。これは、当社の歴史の中で最も低い年間TRIRであり、2020年の数字から31%の削減を表しています。TRIR削減の傾向は過去5年間にわたって継続しており、これまでに、記録された傷害を50%削減することができました。また、2020年から2021年にかけて、3日以上 of 休業が必要な重傷者の割合も47%改善されています。

#### 総労働災害発生率 (TRIR)



#### 3日以上 of 休業が必要な重傷者の割合



### 従業員の95%以上が「インテグリスは安全な職場」と言える環境を構築する。

従業員が職場での安全をどのように捉えているかを理解することは、強力な安全文化を形成する上で大変重要です。ベースラインの2020年には、従業員の90%が安全な職場が提供されていると考えていましたが、2021年には肯定的な回答がわずかに低下し、今年は87%という結果となりました。この数値の変化は、パンデミックが収束し、従業員がこれまでのような職場での平常業務に戻り始めた中で、新型コロナウイルス感染症に対して抱えている懸念を反映していると私たちは考えています。

### 安全性の向上に向け、製造に関わる100%の従業員に積極的な報告・活動に参加してもらう。

けがのない職場を維持するには、従業員が職場環境における危険を積極的に特定し、排除・軽減する必要があります。インテグリスが定義する「積極的な参加」にはいくつかの方法があり、危険な状況に気付いたら報告する、安全点検やインシデント調査に参加するなどがこれに該当します。2020年末には、従業員の約3人に1人が安全性に関わる活動に毎月積極的に参加していました。2021年には、これらの活動の参加率は39%も上昇し、この数字から従業員が自分自身そして同僚を守るための安全な職場環境づくりにより個人的に関与するようになったことがわかります。

こうした目標に加え、インテグリスは国連の持続可能な開発目標、特にSDG 3 (すべての人に健康と福祉を) の達成をサポートしています。作業安全分析やプロセスの安全性評価、人間工学に基づく評価に重点を置き、職場での危険要因を認識・軽減するためのプログラムを継続的に改善しているほか、健康・安全関連の社外専門家と幅広く協力し、規制順守と業界のベストプラクティスに関する定期的な監査を実施しています。

2021年、新型コロナウイルス感染症は、従業員の健康に継続的なリスクをもたらしました。インテグリスの従業員は、マスク着用から換気システムの改良、密を防ぐための作業スペースの再編にいたるさまざまな対策を講じることで、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを管理しました。また、可能な場合はリモートワークを奨励・サポートし、感染により勤務が不可能となった従業員に疾病手当を提供しました。



## マレーシアでの優れた安全実績

2021年、マレーシアにあるクリム工場は、要記録傷病事案なく250万時間以上稼働し、通年で0.07のTRIRを達成しました。業界のベンチマークと比較して、クリム工場チームのTRIRはその優れたパフォーマンスを裏付けるものであり、世界的に見てもトップクラスの安全性を誇っています。

こうした優れた実績の証として、2020年、クリム工場はマレーシア国家労働安全衛生評議会 (NCOSH: National Council for Occupational Safety and Health) から、マレーシアの企業に与えられる最も名誉ある労働安全衛生 (OSH) の賞である「国家労働安全衛生優良賞 (National OSH Excellence Award)」を授与されました。今回の受賞では、クリム工場の安全プログラムの強化や、現場のリーダーシップチームの安全性に対する取り組み、そして強固な安全管理体制が評価されたと言えます。

## 安全を確保するテクノロジーへの投資

テキサス州のディケーター工場では、グラファイト製品の製造にバンドソーが重要なツールとして使用されています。ブレードを使用するため、切断部分に部品を入れたり通過させたりする際に手や指を負傷する大きなリスクが伴います。そこでインテグリスは、2021年、バンドソーのブレード周辺をカメラで監視し、オペレーターが着用している青い手袋を検知する「Guardian Bandsaw Blue Glove」技術への投資を行いました。カメラが手袋を「認識する」と、検出から10ミリ秒以内にブレードを完全に停止させる信号が送信され、オペレーターが作動中のブレードに誤って接触するのを防ぐという仕組みです。

ディケーターの従業員は、Guardianと協働でプロトタイプバンドソーを開発し、2021年の晩夏に稼働を開始。試験運用の成功後、従来のバンドソーに代わるGuardianのバンドソーを12台追加購入したことで、手や指を負傷するリスクが大幅に軽減されました。



## 次のステップ

けがのない職場環境づくりを目指し、インテグリスは常にEHSプログラムを評価し、改善の機会を模索しています。2022年の重点分野の例として、以下が挙げられます。

- 筋骨格系(人間工学的)障害につながる可能性がある職場の活動・状況を認識、評価、軽減するための、監督者および従業員を対象としたトレーニングを実施します。
  - 安全衛生プログラムの有効性を高めることを目的とした、管理監督者向けの安全リーダーシップトレーニングや、全従業員向けのヒューマンファクタートレーニングを強化します。
  - インテグリスの工場におけるISO14001/ISO45001 EHS管理システムの認証取得件数を増やします。
  - 工場の有害な化学薬品の取扱い・処理に関連するリスク管理能力を高めるプロセス安全プログラムおよび関連要素を強化します。
- インテグリスは26の主要工場のうち16の工場でISO認証を取得しており、ベンチマークとなるこれらのEHS管理システムに基づき、今後もさらなる施設の認定機会を模索していく予定です。





## 第3の柱

# 従業員の成長とインクルージョン

インテグリスは、従業員の成長と成功に投資しています。2030年のマイルストーンに向けて「従業員の成長とインクルージョン」の目標を設定して以来、インテグリスは従業員が最大限の可能性を発揮し、安全かつ包括的な環境でそれを実現できるよう確固たる姿勢を貫いてきました。

私たちは、グローバルな職場環境を育み、インテグリス全体に利益をもたらす多様な視点や背景を維持し、支援することに全力で取り組んでいます。ローテーション式の人材開発プログラムに投資し、従業員が継続的な学習や専門的な研修、リーダーシップトレーニングを利用できるよう改善を図っています。従業員が潜在能力を最大限発揮できるよう支援することは、日々直面する新たな課題に対応し、複雑な問題を解決する私たちの力を強化することにもつながります。より多様なパイプラインを構築し、STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 教育やキャリアの過小評価コミュニティへの機会を改善するため、インテグリスは奨学金やインターンシップの機会拡大にも継続的に取り組んでいます。

インテグリスの文化は、PACE フレームワークを中心とした価値観主導の文化です。PACE とは、人とチームワーク (People & teamwork)、責任 (Accountability)、誠実と信頼 (Integrity & Trust)、創造性と革新性 (Creativity & Innovation)、卓越性の追求 (Dedication to Excellence) の頭文字を取ったものです。協力的で包括的な職場を構築することで、誰もが生き生きと働くことができると私たちは考えています。

2030年までの  
従業員の成長と  
インクルージョン  
の達成目標

1

女性や社会的に過小評価されているコミュニティを対象としたSTEM奨学金やエンジニアリングインターンシップに3,000万米ドル以上を投資します

2

新規エンジニア職の50%以上を、女性や社会的に過小評価されているグループから採用することを目指します

3

取締役会メンバーにおいて50%のダイバーシティの達成を目指します

4

リアルタイム学習機会と社内トレーニングへの参加時間を2020年の5倍以上に増やします

国連の持続可能な  
開発目標

1 貧困をなくそう



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



10 人や国の不平等をなくそう



16 平和と公正をすべての人に



## 2030年までの従業員の成長とインクルージョンの達成目標

インテグリスは従業員の能力開発に投資し、支援し続けることを重視しています。2030年の達成目標を設定して以来、私たちは、より多様かつ包括的で、今日直面している新たなグローバル規模の課題に立ち向かう能力を備えた、ワークフォースや人材パイプライン、コミュニティの構築を支援すべく前進しています。

**2030年までに、女性や社会的に過小評価されているコミュニティを対象としたSTEM奨学金やエンジニアリングインターンシップに3,000万米ドル以上を投資する。**

この目標は、エンジニアリング分野への参入機会を拡大し、より多様な人材パイプラインを構築することに焦点を当てています。この目標達成に向け、2020年、インテグリスはSTEM奨学金に資金を提供するインテグリス財団 (Entegris Foundation) を設立。2021年の時点で、米国の学生8名と台湾の学生5名の計13名に財団奨学金を授与し、総額225,000米ドルの奨学金を提供しました。さらに、韓国の5名の学生に総額25,000米ドルの財団以外の奨学金も授与しています。インテグリスの共同研究プログラムやインターンシップには合計133人の学生が参加し、そのうち79人が女性または社会的に過小評価されているコミュニティの出身でした。インテグリスはこれまでに奨学金やインターンシップ、共同研究プログラムを通じて総額800万米ドルを投じており、これには、2021年の共同研究およびインターンシッププログラムへの144万米ドルの投資が含まれます。

**新規エンジニア職の50%以上を女性や社会的に過小評価されているコミュニティから採用し、また、**

**取締役会メンバーにおいて50%のダイバーシティを達成することを旨とする。**

私たちは、キャリアとリーダーシップへの参入機会を拡大することにより、社内のあらゆるレベルにわたって、あらゆる形態の多様性を推進することに焦点を置いています。2021年には、エンジニア職の42%を女性や社会的に過小評価されているグループから新規採用しました。また、2021年には取締役会メンバーが新しく2名加わり、ダイバーシティが2020年の13%から38%に上昇しました。

**リアルタイム学習機会と社内トレーニングへの参加時間を2020年の109,000時間の5倍以上に増やす。**

2021年、トレーニングの合計修了時間が160,184時間に増加しました。これは、全世界の従業員1人あたり約26時間に相当し、これには個人のスキル開発や専門的な能力開発、リーダーシップ能力開発が含まれます。インテグリスは従業員のキャリア開発への投資が、私たちが今日直面しているグローバル規模の新たな課題に取り組み続ける上で役立ち、これによって会社としてより多くのことを達成できると確信しています。

私たちが独自に設定した「従業員の成長とインクルージョン」の達成目標は、国連の持続可能な開発目標 (U.N.SDGs) と連帯しており、これにはSDG 1 (貧困をなくそう)、SDG 4 (質の高い教育をみんなに)、SDG 5 (ジェンダー平等を実現しよう)、SDG 10 (人や国の不平等をなくそう)、SDG 16 (平和と公正をすべての人に) が含まれます。2030年までの「従業員の成長とインクルージョン」の目標達成の進展に伴い、インテグリスは格差や不平等の問題を解消し始めています。たとえば、インテグリスのSTEM奨学金は、経済的に不利な立場にあり、STEM教育やキャリアにおいて一般的に少数しかいない学生に質の高い教育を提供するのに貢献しました。また、半導体産業を直接支援することで、私たちは国内および国家間の情報共有の民主化を目指しています。最後に、インテグリスは公正で差別のない雇用慣行に努めており、インターン、共同研究、請負業者、正社員などにかかわらず、新しい人材の採用時には常に包括性を重視しています。

## 注目の奨学生

2021年、STEM分野の未来のリーダー育成を支援するためにインテグリス財団および奨学金プログラムは設立されました。この設立によりインテグリスは、業界内に人材のパイプラインを構築し、優秀な学生が能力を最大限に発揮できる体制を支援していきたいと考えています。私たちがより良い世界を創造してくれると確信する、才能ある2人の奨学生をご紹介します。



### Nardine Faheem

大学：マサチューセッツ大学ローウェル校  
専攻：機械工学

Nardine は、自分のスキルを伸ばし、新しい独創的なソリューションで問題を解決することをエンジニアとしての目標としています。機械工学とプロセス工学の両方を探求し、大規模なチームでのプロジェクトにも取り組んでいます。インターン期間中は、ネットワークやコネクションを築き、協働で作業する機会にも多く恵まれたと言えます。奨学金を受けたことの影響について尋ねると、学生としての経済的負担を軽減するのに役立ったこと、そして「大変な状況でも、断固たる決意をもって目的を貫けば努力は報われる」ことが実感できるようになったことだと述べています。



### Sebastian Chávez Da Silva

大学：ノースイースタン大学  
専攻：生産工学、政治学

Sebastian は、問題解決が好きだったことが、生産工学と政治学を勉強し始めるきっかけとなりました。政治学の分野において生産工学のアプローチを用いており、そのおかげで、プロセスの安全性や効率性、有効性を高めることを重視できるようになったと言います。将来的には、こうした産業工学の経験やSTEMの他の概念を、赤十字国際委員会などの人道的活動に応用したいと考えています。「インテグリスによる進学に向けた寛大な寄付のおかげで、給与よりも、自分の仕事に対する関心や希望に合ったポジションを探すことに目を向けられるようになりました」と述べています。

## 次のステップ

個人の能力開発とインクルージョンの目標を推進し続ける上で、インテグリスが来年度、優先的に行っていく取り組みをいくつかご紹介します。

### 従業員コミュニティの強化

- 従業員ネットワークをグローバルに構築し、人種毎の従業員グループや持続可能性の問題に強い関心を持つ従業員のグループなどのネットワークへと拡大します。また、ネットワークごとにリーダーシップチームをつくり、組織のあらゆるレベルの従業員がグローバルに経営陣とつながる機会を提供します。さらに地域コミュニティを支援する従業員ネットワークも拡大し、ボランティア活動やメンタリング、コミュニティ貢献プログラムを通じてSTEM分野を多様化するという目標を継続していきます。2022年に組み込まれたネットワークには、世代間、女性、LGBTQ+、退役軍人、人種、持続可能性が含まれます。

- 従業員の出産/子育てを支援する、家族手当を拡充します (LGBTQ+コミュニティも対象)。
- インテグリスは、新卒者向けのリーダーシップローテーションプログラムであるインテグリス指導力開発 (Entegris Leadership Development) の成功を受け、2022年にはオペレーションチームに幅広いリーダーシップ経験を提供する、オペレーション指導力開発 (Operations Leadership Development) プログラムを開発し、提供を開始しました。同プログラムでは、組織のあらゆるレベルの従業員により多くの指導力開発の機会を提供することを焦点としています。

### 外部コミュニティへの働きかけの拡大

- インテグリスがサービスを提供するより多くのコミュニティにSTEM奨学金を拡大するとともに、日本や台湾、マレーシアに新しい奨学金機会を追加。さらに奨学生やインターンシップ、共同研究のネットワーキング機会を提供し、若い専門家のさらなるキャリア開発を促進します。
- 外部の専門家組織と提携して、社会的に過小評価されているコミュニティのプロフェッショナルに対する才能のパイプライン形成を支援します。さまざまな組織を調査し、多様な社会的に過小評価されているコミュニティへの働きかけを拡大します。





第4の柱

# 持続可能性

インテグリスは、環境の持続可能性と資源管理を事業活動のあらゆる側面に取り入れる責任を担っていることを理解しています。

これは、製造工場や製造プロセスでエネルギーや水、原材料などの資源を効率的に使用することから始まります。また、環境への影響を最小限に抑えるために、リサイクルや廃棄物の発生を抑制しています。そして、製品の設計・開発においても、同じ原則を適用しています。私たちのお客様と利害関係者は、協力会社とパートナーが持続可能な事業活動を取り入れることを期待しており、インテグリスはその期待に応えるとともに、これら共通の目標を達成するためにお客様をサポートすることをお約束します。

事業を運営するために増大するエネルギーと水の需要に対応しながら、天然資源の保全に努めることはますます困難になっていますが、私たちは持続可能な方法でお客様とコミュニティの経済成長を支えるための解決策を見出すために全力を尽くします。

2030年までの  
持続可能性の  
達成目標

1

収益1米ドルあたりの  
エネルギー消費量を  
2020年のベース  
ラインから20%以上  
削減します

2

(地域的に)可能な限り、  
100%再生可能エネ  
ルギーによる電力を利用  
します

3

収益1米ドルあたりの  
水の消費量を2020年  
のベースラインから  
50%以上削減します

国連の持続可能な  
開発目標

6 安全な水とトイレ  
を世界中に7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに11 住み続けられる  
まちづくりを12 つくる責任  
つかう責任13 気候変動に  
具体的な対策を15 陸の豊かさ  
を守ろう

## 2030年までの持続可能性の達成目標

2021年、インテグリスは2030年の目標に沿った活動を追求するために、従業員や協力会社、外部サポートリソースの行動を組織化しました。

インテグリスの収益1米ドルあたりのエネルギー消費量を2020年のベースラインから20%以上削減する。

2021年、いくつかの大規模な製造工場でのエネルギーと水の使用状況の監査を完了し、世界各地の事業拠点で保全プロジェクトの詳細な計画を作成しました。これらのプロジェクトが完了すると、インテグリスの総電力消費量は年間約570万kWh削減される見込みです。2021年、最初のグループにこれらのプロジェクトを実施したところ、エネルギー消費は2020年のベースラインから15%削減しました。また、世界中の多くの工場での効率的なLED照明への更新を行い、製造工場では一部の機器の入れ替えやさまざまなシステムの効率改善プロジェクトを開始しました。これらのベストプラクティスに従って、米国マサチューセッツ州ビレリカにあるグローバル本社の製造チームは、生産量を増やしながら電力消費を7%削減することに成功しています。

(地域的に)可能な限り、100%再生可能エネルギーによる電力を利用する。

インテグリスは、再生可能エネルギー資源の調査を依頼し、当社の電力供給業者を再生可能エネルギー源に転換する機会を特定しました。調査結果に基づいて再生可能エネルギー供給計画を策定し、2021年に実施を開始しました。これには、「環境に配慮した/再生可能」電力の供給契約や再生可能電力の自家発電などの複数のオプションが含まれています。再生可能な自家発電への取り組みには、2021年に契約したマレーシアのクリム工場に設置する1.7MWの太陽光発電システムがあり、2023年初頭から工場の電力需要の最大3%を供給する予定です。また、2022年には、系統電力による電力供給に伴う二酸化炭素排出量を相殺するために、再生可能エネルギーを購入する機会を評価する予定です。

インテグリスの収益1米ドルあたりの水の消費量を2020年のベースラインから50%以上削減する。

インテグリスは、台湾の高雄サイエンスパーク(KSP)に最新かつ最大の製造工場を建設しています。私たちは、エネルギーや水、資源の使用効率を、設計やエンジニアリング、建設プロセス全体の指針として重視するとともに、エネルギーと水の使用量の大幅な削減に取り組んできました。この課題に対応するための取り組みの一環として挙げられるのが、年間約6,300万ガロンの水を節約するKSPの水再生処理施設の設置です。これにより、他のインテグリス拠点での同等の操業と比較し、水の消費量(インテグリスの収益額あたり)が50%以上削減されます。KSPでの導入が成功した後は、他の水需要の多いインテグリス施設への展開に向けて、これらの水再生処理法を評価する予定です。



## 廃棄物削減のための再設計

インテグリスは、半導体メーカー向けの液体化学薬品の保管・配送に使用されている200L高密度ポリエチレン(HDPE)ドラムの設計を見直しました。再設計前のドラムは、残留薬液が底部に滞留しやすく、移し替えにくいという問題がありました。ドラム内の液溜りが、お客様にとって廃棄物処理の新たな課題となっていたのです。ドラムを再設計したことで、プロセス装置への液体化学薬品の移送効率が向上し、使用できない液体として生じる廃棄物が大幅に削減されました。このドラムの設計改善は、お客様の薬液の使用効率の向上に貢献し、薬液の廃棄量を約85%削減することに繋がりました。

## 生産における水使用量の削減

2021年、インテグリスのマイクロコンタミネーションコントロール(MC)部門は、米国マサチューセッツ州ビレリカにある工場で、フィルター製造に使用する水量を削減するために、大幅な製造プロセスの変更を実施しました。このプロジェクトは、お客様や利害関係者との協力と非常に複雑な製造・試験プロセスの最適化を通じて、フィルター製造で使用される水量を50%削減することが期待されています。これらのプロセス改善がもたらした最初の結果は非常に有望で、2030年の水使用量の目標を達成するために不可欠なものになると考えています。

## 廃棄物ゼロ認証の取得

2020年、日本の米沢工場では、生産関連の廃棄物の99%以上をリサイクルするという目標を掲げました。2021年に同工場でスタートしたゼロエミッションプロジェクトでは、ガラスからプラスチック、木材に至るまで廃棄物をリサイクルする活動に加え、廃溶剤のリサイクルを促進するための溶剤配管の改造という具体的なプロジェクトも実施しました。集中的な取り組みにより、同工場は2021年のリサイクル率99.96%を達成し、当初の目標を上回る大きな成果を上げました。

# 150,000 ポンド

1年間に事業所内で回収され、リサイクルされ、再利用されるクリーンな射出成形スクラップ樹脂材料の量。



## 次のステップ

インテグリスはサステナビリティの目標達成に向け、来年は以下の主要プロジェクトに優先的に取り組みます。

- マレーシアのクリム工場に、1.7 MWの太陽光発電設備を設置します。このプロジェクトは、当社の100%再生可能エネルギー目標に直接貢献し、クリム工場の電力供給にレジリエンスを与えます。さらに、太陽光発電が供給する電力は系統電力からの供給電力の代替となり、年間180万 kg CO<sub>2</sub>e 以上の削減を実現します。
- NSTAR 社と、マーストンミルズにある彼らの太陽光発電施設から米国マサチューセッツ州にあるインテグリスの工場に年間約380万 kWhの電力を供給する契約を締結します。この再生可能エネルギー電力購入で削減される年間の二酸化炭素排出量は、約300万ポンドの石炭の燃焼や自動車で660万マイル以上走行することで生じる量に相当します。
- マイクロエレクトロニクスエコシステムのあらゆるセクターのメンバーが集まり、温室効果ガス排出の削減と、その他の差し迫ったESG課題に対処する独自のソリューションを見つける取り組みを行う、半導体気候関連コンソーシアムに(創設メンバーとして)参加します。[半導体気候関連コンソーシアム](#)では、同業者やパートナーと協力し、当社の事業および業界全体において気候変動に対する革新と行動を起こすためのユニークな機会を提供しています。



## サプライチェーン

インテグリスでは、より良い未来の構築には、サプライチェーンを含む業務のあらゆる部分で実行できる革新的なアイデアを結集させる必要があると考えています。協力会社との強力なパートナーシップを育むことで、持続可能性や包括性、規制の複雑さなどの課題に取り組み、全員に利益をもたらすソリューションを提供することができます。



# 責任ある企業同盟

インテグリスは、責任ある企業同盟 (RBA: Responsible Business Alliance) 行動規範を採用し、協力会社の行動規範として展開しています。

RBA 行動規範には、倫理、労働と人権、安全衛生、環境保護、および法律の遵守 (汚職と贈収賄の禁止を含む) に関して、協力会社の事業行動にインテグリスが期待する主要な内容が述べられています。私たちは、協力会社とパートナーが RBA 行動規範の要件を支持し、環境・社会・ガバナンス (ESG) パフォーマンスの透明性を示すことを期待しています。

本レポートの発行時点で、現在インテグリスに資材を提供している協力会社の RBA 行動規範の認知度は 57% を達成し、2020 年半ばの 33% から大きく上昇しています。今後は、上位の協力会社との連携を優先し、調達額の 85% を占めるこれらの企業における行動規範の認知度が大幅に上昇すると期待しています。

協力会社とのパートナーシップと透明性への取り組みによって共に前進する例をいくつかご紹介します。

## 協力会社の関与

インテグリスの CSR の取り組みを成功させるには、持続可能性の展望と道筋を協力会社と積極的に共有することが重要です。インテグリスは、同様に持続可能なサプライチェーンの構築と ESG イニシアチブを推進するロードマップの確立に取り組んでいる協力会社と提携しています。

インテグリスは、協力会社と連携し、バーチャル研修、監査、スコアカードなどのさまざまな活動を通じて CSR の目標を定め、改善の道筋を見つけます。2020 年の時点で、インテグリスは 131 件の累積監査を実施し、2021 年にはその数を 176 件に増やしました。またインテグリスは、期待と情報を共有する手段としてサプライヤーポータルを強化し、グローバルな協力会社によるアクセスを向上させるべく、複数言語によるサプライチェーンの持続可能性に関する文書を提供しています。

## 協力会社との連携

循環経済に向けた取り組みとして、インテグリスの上流と下流両方のエコシステム全体でプログラムを開発しています。

インテグリスは、業界標準の IEC 62474 で規定されている規制物質が製品の材料の組成に存在しないことに注意を払うように、一貫してサプライチェーンに求めています。すべての協力企業に連絡して要件を伝え、規制対応の証明の提出を求めています。

さらに、インテグリスの期待、業界のベストプラクティス、グローバルな規範に沿わない会社からは材料を意図的に購入しない方針をとっています。

したがって、インテグリスの製品への責務チームは、次のことを積極的に行います。

- 規制要件、業界標準、お客様の要件、新たなベストプラクティスを常に把握します。
- インテグリス製品への世界的な規制と業界標準の適用を評価し、適合を推進します。
- ソフトウェアを使用して、すべてのインテグリス製品に対して RBA 準拠や国際的な法律や規制への材料適合性について商品ごとに要件を追跡します。
- インテグリスの求めるさまざまな規制や業界標準について協力会社や製造パートナーなどの協力企業に連絡し、認識を伝達します。
- 新しい協力会社を評価し、認定します。

また、創業以来、インテグリスは責任ある鉱物調達 (RMI: Responsible Minerals Initiative) の取り組みを積極的に支援してきました。RMI は紛争鉱物の問題の複雑さを軽減する最善の方法を理解して決定するための業界全体の取り組みです。インテグリスは、経済協力開発機構 (OECD: Organisation for Economic Co-operation and Development) と RBA が定めたガイドラインに沿った協力会社の適正評価と材料の原産国に関する合理的な調査をすることにより、RMI のプログラムを支援しています。米国証券取引委員会に毎年提出しているインテグリスの[紛争鉱物レポート](#)をご覧ください。

## サプライヤー サステナビリティ アワード

協力会社の皆様が CSR 内で行っている重要な仕事を認識してそこから学ぶことで、インテグリスの包括的サプライチェーン管理が強化されます。そのため、インテグリスは、毎年、協力会社の CSR におけるリーダーシップに対し、サプライヤー サステナビリティアワード (Supplier Sustainability Awards) を設け表彰しています。受賞者は、インテグリスの持続可能性スコアカードの成績とサービスを提供する地域社会や業界への影響に基づいて選定されます。2022 年には、このアワードプログラムの対象を物流事業者にも広げています。



## 協力会社の ダイバーシティ

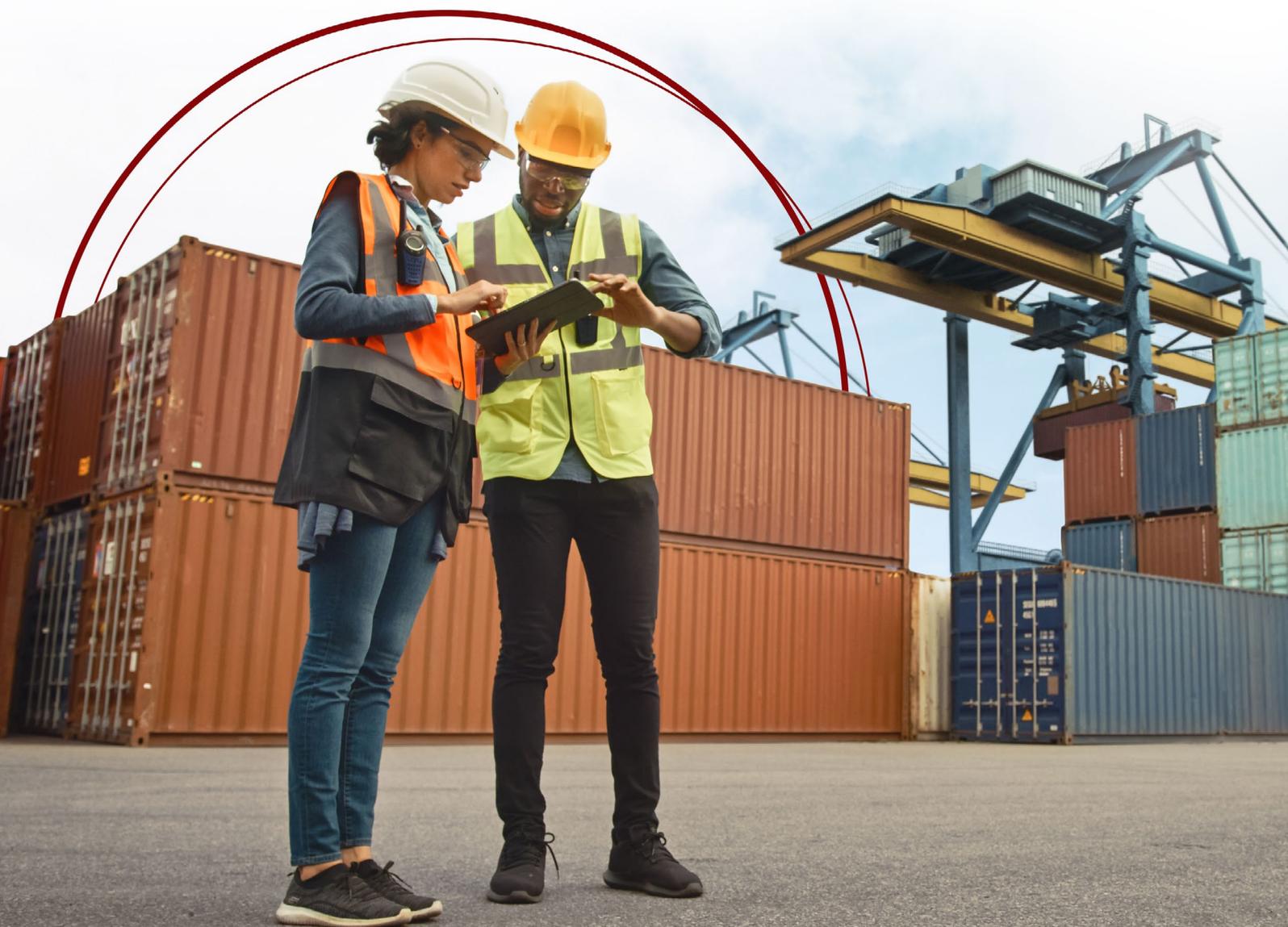
インテグリスは全従業員のダイバーシティとインクルージョンの促進に取り組んでおり、その取り組みを供給基盤にまで広げています。ここでは、多様性のある協力会社にインテグリスの支出の 15% 以上を任せるという意欲的な目標を設定し、それを達成することで、言行一致を実現しています。



## 次のステップ

サプライチェーンの持続可能性と多様性を推進する取り組みを展開しながら、今後1年間に優先的に進めるプログラムを紹介します。

- 現地調達を可能な限り推し進め、排出量の影響をさらに低減します。
- RBA 行動規範の確認プログラムの対象を、間接サプライヤーにも拡大します。
- 調達の持続可能性に関する継続的なトレーニングを取り入れることで意識を高め、ベストプラクティスを確実に展開することで環境および社会的ガバナンスにさらに注力します。



## 付録データ

インテグリスは、企業の社会的責任 (CSR) プログラムの効果の報告および測定と 2030 年までの達成目標に対する進捗状況に関して説明責任と透明性の確保に取り組んでいます。次の表は、イノベーション、安全、従業員の成長とインクルージョン、持続可能性という CSR の 4 本の柱における 2030 年までの達成目標を、測定ベースライン (一部に推定値を含む) や今後の報告、測定計画とともに示したものです。また、半導体業界のサステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 指標と、可能な場合はそれらの指標に関連するデータも提示しています。

SASB 基準は、持続可能性が財務に与える影響について企業と投資家を結びつけ、財務実績に最も関連性の高い環境、社会、ガバナンスの一部の問題を特定します。SASB フレームワークに完全に準拠する取り組みの一環として、可能な限りすべての基準についてのデータを提供することを目指しています。

### セクション 1: 柱となる取り組み

柱	2030 年までの達成目標	2020 年のベースライン	2021 年の結果
イノベーション	経常費の少なくとも 55 % を研究開発 (R&D) に投資します	35 % (非 GAAP)	37 % (非 GAAP)
	お客様の技術ロードマップを前進させるためにイノベーションのポートフォリオを 100 % 実現します	2020 年は未評価	お客様の技術ロードマップを前進させるためにイノベーション ポートフォリオを 100 % 実現するという目標を達成しました
	U.N. SDGs を推進するために、インテグリスのイノベーション ポートフォリオを 100 % 連携させます	2020 年は未評価	研究開発への投資の 100 % は、U.N. SDGs の少なくとも 1 つに連携しました
安全	インテグリスのすべての施設で、けがのない職場環境を目指します	総労働災害発生率 (TRIR) 0.74 未満 <sup>1</sup>	総労働災害発生率 (TRIR) 0.51
	従業員の 95 % 以上が「インテグリスは安全な職場」と言える環境を作ります	90%	87%
	安全性の向上についての積極的な報告に、製造に関わる 100 % の従業員に参加してもらいます	25%	46%

<sup>1</sup> U.S. OSHA の記録管理規則による。

柱	2030年までの達成目標	2020年のベースライン	2021年の結果
従業員の成長と インクルージョン	女性や過小評価されている国の人々を対象としたSTEM奨学金やエンジニアリングインターンシップに3,000万米ドル以上を支出します	2020年は奨学金未授与 <sup>2</sup>	これまでに奨学金、共同研究、インターンシッププログラムに800万米ドルを支出しました
	新規エンジニアの50%以上を女性や社会的に過小評価されているグループから採用します	39% <sup>3</sup>	42%
	取締役会メンバーにおいて50%のダイバーシティ達成を目指します	13% <sup>4</sup>	38%
	リアルタイムの学習機会と内部トレーニング時間を2020年の5倍以上に増やします	109,000時間 <sup>5</sup>	160,184時間
持続可能性	収益1米ドルあたりのエネルギー消費量を2020年のベースラインから20%以上削減します	557MMBtu/100万米ドル <sup>6</sup>	471MMBtu/100万米ドル、収益1米ドルあたり15.4%の削減
	(地域的に)可能な限り、100%再生可能エネルギーによる電力を利用します	2020年のデータ未提供 <sup>7</sup>	3% <sup>8</sup>
	収益1米ドルあたりの水消費量を2020年のベースラインから50%以上削減します	580m <sup>3</sup> /100万米ドル <sup>9</sup>	578m <sup>3</sup> /収益100万米ドル、収益1米ドルあたり0.34%の削減 <sup>10</sup>

2 2020年、インテグリス財団を設立してSTEM奨学金への資金提供を開始し、2022年の時点で同財団に800万米ドルを寄付しました。

3 世界で卒業後1年以内にエンジニアとして採用された女性および社会的に過小評価されているグループの出身者。社会的に過小評価されているグループは米国での定義に基づいています。

4 2020年のベースライン値では、取締役を務める女性は1名でした。2021年、新たに2名の多様な取締役を迎え、取締役会のダイバーシティが38%に上昇しました。

5 測定されたトレーニング時間は従業員育成のための時間です。

6 インテグリスの管理下にある製造業務で使用されるすべてのエネルギー源の合計。利用できないデータがある場合、計算による推定値が含まれます。

7 世界の調達エネルギーから再生可能エネルギーを特定する作業が進行中です。15%の再生可能電力は、すでに電力会社から調達している電力に含まれています。

8 3%の再生可能エネルギーを契約しています。これは、2021年のエネルギー消費量を反映していないため、SASB TC-SC-130a.1で報告された値とは異なります。

9 インテグリスの管理下にある製造業務から取水された飲料水の総量。利用できない計測値がある場合、計算による推定値が含まれます。

10 2020年から2021年にかけてデータの収集プロセスが改善され、ベースラインが改訂されました。インテグリスは、このレポートでベースラインの見直しを行わないこととしたため、2020年のベースラインと2021年の結果の差は、実際に反映された値よりも小さくなります。

## セクション 2: SASB 基準

SASB のトピック	コード	会計指標	2020 年の ベースライン	2021 年の 結果	ページ
製品ライフサイクル管理	TC-SC-410a.1	IEC 62474 申告対象物質を含む製品の収益別割合	報告なし	当社の製品向けに供給される材料の 100% について、IEC 申告対象物質すべてを追跡するとともに、サプライチェーンに対してこれらの材料を特定し、使用を排除する必要があることを継続的に伝えています。	-
	TC-SC-410a.2	システムレベルでのプロセッサのエネルギー効率: (1) サーバー、(2) デスクトップ、(3) ノートパソコン	該当なし	この指標は材料サプライヤーではなくデバイス メーカーを対象としているため、該当なし。	-
材料調達	TC-SC-440a.1	重要な材料の使用に関連するリスク管理の説明	<a href="#">紛争鉱物レポート</a> <a href="#">紛争鉱物の方針</a> <a href="#">持続可能な調達方針</a>	インテグリスは、材料サプライヤーのリスクレベルを評価するためのリスク軽減プログラムを継続的に実施しています。	26
知的財産保護と競争的な行為	TC-SC-520a.1	反競争的な行為の規制に関連する訴訟手続きによる金銭的損失の総額	0 米ドル	0 米ドル	-
従業員の安全衛生	TC-SC-320a.1	従業員の健康被害にさらされる機会を評価・監視・削減する取り組みの説明	詳細は安全の柱を参照	インテグリスは、危険を認識して軽減するためのさまざまなプログラムを改善しました。また、専門家と協力して、3 年ごとに規制順守と業界ベスト プラクティスの準拠の両方に対して監査を実施しています。	13
	TC-SC-320a.2	従業員の健康と安全の違反に関連する法的手続きによる金銭的損失の総額	0 米ドル	0 米ドル	-

SASB のトピック	コード	会計指標	2020 年の ベースライン	2021 年の 結果	ページ
従業員の関与、 ダイバーシティ、 インクルー ジョン	TC-SC- 330a.1	(1) 外国人および (2) 在外従 業員の割合	(1) 1.6 % の外国人 (2) 48 % の北米以外 の従業員	1) 1.79 % の外国人 2) 43.8 % の北米以外の従業員	-
GHG の排出	TC-SC- 110a.1	(1) グローバル スコープ 1 総排出量 (2) パーフルオロ化合物の 総排出量	(1) 30,855 mtCO <sub>2</sub> e <sup>1</sup> (スコープ 1) (2) 報告なし	1) 23,756 mtCO <sub>2</sub> e (スコープ 1)、 97,009 mtCO <sub>2</sub> e (スコープ 2) 2) 報告なし	-
	TC-SC- 110a.2	スコープ 1 の排出量、排出 量削減目標、およびそれら の目標に対する実績分析を 管理するための長期・短期 の戦略または計画について の議論	詳細は持続可能性 の柱を参照	インテグリスのスコープ 1 排出量の 84 % は、製造現場での燃料の直接燃 焼によるものです。スコープ 1 排出量 の削減戦略は、現場での直接燃料消費 を対象とするエネルギー削減目標に盛 り込まれています。インテグリスは、総 エネルギーの 3 % を再生可能エネル ギーで賄っています。	21
エネルギー管理	TC-SC- 130a.1	(1) 総消費エネルギー (2) 系統電力の割合 (3) 再生可能エネ ルギーの割合	(1) 1,092,708 GJ (2) 64 % (3) 0 %	1) 1,147,076 GJ 2) 67 % 3) 0 %	-
水および廃水の 管理	TC-SC- 140a.1	(1) 総取水量 (2) 総消費水量、ベースライ ンの水ストレスが高い地域 または非常に高い地域にお けるそれぞれの割合	(1) 1,078,926 m <sup>3</sup> <sup>2</sup> (2) 報告なし	1) 1,326,900 m <sup>3</sup> 2) 総取水量の 7 %	-
廃棄物および危 険物の管理	TC-SC- 150a.1	製造からの有害廃棄物量、 リサイクル率	3,246 MT、 報告なし <sup>3</sup>	3,333 MT の有害廃棄物、 報告なし	-

1 IPCC 第 5 次評価報告書 (2014) を使用してインテグリスの運用管理下にある施設に対して計算されたスコープ 1。

2 インテグリスの管理下にある製造業務から取水された飲料水の総量。利用できない計測値がある場合、計算による推定値が含まれます。

3 有害廃棄物はリサイクルしていますが、危険物の指定や廃棄物の分類方法が地域によって異なるため、この活動を定量化することは困難です。

## 注意事項

このレポートには「見通しに関する記述」が含まれています。「信じる believe」、「期待する expect」、「見込む anticipate」、「意図する intend」、「見積もる estimate」、「予測する forecast」、「計画する project」、「はずである should」、「可能性がある may」、「つもりである will」、「であろう would」またはこの否定的な表現や類似の表現は、見通しに関する記述です。これらの記述には、インテグリスの 2030 年の CSR 目標に関連する記述、それらの目標達成のための計画、それに関連する報告、さらには、インテグリスのエンジニアリング、研究、開発の各プロジェクトの焦点、ならびにインテグリスの世界的認知度向上などの事業戦略を実行するインテグリスの能力、そしてその他の事項が含まれています。見通しに関する記述は、程度の差はあれ不確実であり、リスク、不確実性、および仮定の影響を受ける問題を扱っています。これらの多くはインテグリスの管理の及ばないものであり、実際の結果は見通しに関する記述で表明されたものと大きく異なる可能性があります。これらのリスクと不確実な要素には、2022 年 2 月 4 日に証券取引委員会に提出したインテグリスの 2021 年 12 月 31 日までの会計年度に関する Form 10-K 年次報告の項目 1A の「リスク要因 (Risk Factors)」およびインテグリスのその他の定期提出書類に記載されているリスクや要素が含まれますが、これらに限定されるものではありません。連邦証券法および証券取引委員会の規約で義務付けられている場合を除き、インテグリスは、それぞれの日付の時点で記載されている、本書に含まれる見通しに関する記述または情報を公に更新する義務を負わないものとします。見通しに関する記述は将来の結果を保証するものではありません。

本書でのインテグリスによる MSCI ESG RESEARCH LLC またはその関連会社（「MSCI」）のデータの使用、および MSCI ロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名の使用は、MSCI によるインテグリスの支援、承認、推奨、推進に相当するものではありません。MSCI のサービスおよびデータは、MSCI またはその情報提供者の所有物であり、何ら保証のない「現状のまま」で提供されます。MSCI の名前とロゴは MSCI の商標またはサービスマークです。

## インテグリスについて

インテグリスは、半導体およびその他のハイテク産業で使用される先端材料およびプロセスソリューションにおける世界的なサプライヤーです。全世界で約 10,000 人の従業員を擁し、ISO 9001 の認証を取得しています。米国、カナダ、中国、フランス、ドイツ、イスラエル、イタリア、日本、マレーシア、シンガポール、韓国、台湾、英国に製造工場、カスタマー サービス、研究施設があります。追加の情報については [www.entegris.com/ja/home.html](http://www.entegris.com/ja/home.html) をご覧ください。



Entegris, Inc.  
129 Concord Road  
Billerica, MA 01821  
USA

Entegris®、Entegris Rings Design®、およびその他の製品名は、Entegris, Inc. の商標です。詳細については [entegris.com/trademarks](http://entegris.com/trademarks) をご覧ください。全てのサードパーティの製品名、ロゴ、企業名、商標、登録商標は、それぞれその所有者に帰属します。それらの使用は、商標権所有者との提携、同者による支援、推奨を示すものではありません。

©2023 Entegris, Inc. | All rights reserved. | 9000-12616-WEB-1222-ja